

リニューアルされた京都外回りコースでは、  
ロングスパート戦になりやすい傾向が見受けられます。

加えて、タイトルホルダーがペースを作るとなれば  
スローペースの瞬発戦にはならぬかと・・・

ロングスパート戦となった京都開催の天皇賞春では、

トニービン

ステイゴールド

ノーザンテースト

ニジンスキー

持続型ナスルーラ

以上の血がスパイス血統となります。

また、戦歴としては、長いところでしか走れないタイプは  
通用しない傾向が顕著で、**2000m以下**の重賞で  
**3着以内**の実績が有るか、**2400m以下**の重賞に**勝鞍**があるような  
高いレベルのスピード能力を持っている事が非常に重要です。

危険な1人気は「追込み脚質」「気性難」

ゴールドアクター

ゴールドシップ

オルフェーヴル

キズナ

このうち、キズナ以外は気性難を抱えておりました。  
つまり、ゲートに難がある1人気は信頼できません。

ただ、今年はおそらく逃げ馬のタイトルホルダーが  
1人気になりそうですので、危険な1人気には該当しません。

・アイアンバローズ

父:オルフェーヴル(Tサンデー系)

父母父:メジロマックイーン(トゥルビヨン系)

母父:ロイヤルアンセム(欧ヌレイエフ系)

祖母父:レッドランサム(欧ロベルト系)

内回りコースのロングスパート戦が得意ですが  
外回りコースでは、ゴールまで息が続き  
東京コースのアルゼンチン共和国杯では惨敗。

戦歴的に、重賞では3000m以上でしか馬券になっておらず  
スピード能力が不足していると考えられます。

血統評価:C

重賞実績:D

適性評価:D

・アスクビクターモア

父:ディーピンパクト

父母父:欧リファール系/ND系

母父:レインボウクエスト(欧ブラッシンググループ系)

祖母父:ナイトシフト(欧ノーザンダンサー系)

母父のレインボウクエストはG1凱旋門賞馬。  
2000m重賞に勝鞍があり、菊花賞馬でもあります。

しかし、内回りコースにしか勝鞍が無く、外回りコースでの  
ロングスパート戦を経験していない点は若干の不安材料。

さらに、ダービーで好走した  
ディーブ産駒が古馬のG1で信頼できない点と、  
ディーブ産駒が惨敗直後の巻き返し率の低い種牡馬である事も  
不安材料として挙げられます。

血統評価:B

重賞実績:A

適性評価:C

・アフリカンゴールド

父:ステイゴールド

父母父:ディクタス(欧ファイントップ系)

母父:ゴーンウエスト(米ミスプロ系)

祖母父:デインヒル(欧ダンチヒ系/ND系)

ロングスパート戦の天皇賞春で期待値が高いステイゴールドの直仔で、直線の長い中京の2000m重賞中日新聞杯で2着した時のラップはロングスパート戦であった事は高く評価できるポイントです。

既に8歳ですが、老化速度の遅いセン馬であり、同じくセン馬だった半兄のアフリカンストーリーは8歳の春にG1で優勝した超晩成タイプでした。

血統評価:A

重賞実績:B

適性評価:B

・エンドロール

父:ガルボ(Lサンデー系)

父母父:ジェネラス(欧ニジンスキー系)

母父:チチカステナンゴ(欧グレイソヴリン系)

祖母父:アグネスタキオン(Pサンデー系)

前走2勝クラスからの格上挑戦。  
特に長距離血統と言う要素もなく、  
評価すべきポイントが見出せません。

血統評価:D

重賞実績:E

適性評価:E

・サンレイポケット

父:ジャングルポケット(欧トニービン系)

父母父:欧ヌレイエフ

母父:ワイルドラッシュ(米ニアークティック系)

祖母父:サンデーサイレンス

トニービン持ちで、近親には2200m以上のG2で頻繁に馬券に絡んだアドマイヤデウス。

血統の字面として、母父にワイルドラッシュと言うのは長距離G1とは縁遠いのですが、アドマイヤラピス牝系はアドマイヤデウスのようにステイヤーとしての資質を受け継ぐケースも見受けられます。

ただ、基本的にG1ではちょっと足りない一族ですな。

2000m以下の重賞に実績が有り、中京開催だった鳴尾記念はロングスパート戦ではG1好走実績馬のヴェルトライゼンテに僅差の競馬。

掲示板確保はあり得るかも知れません。

血統評価:B+

重賞実績:B

適性評価:B

・シルヴァーソニック

父:オルフェーヴル(ステイゴールド系)

父母父:メジロマックイーン(欧トウルビヨン系)

母父:トニービン/欧グレイソヴリン系

祖母父:欧リファール/ノーザンダンサー系

ステイゴールドとトニービンのコラボ配合馬。

昨年の当レースでは、スタートで川田殿が落っこちて競走中止にはなりましたが、入線順位は小差の2位でした。

斤量0キロという特殊な条件下での結果でしたが、長距離戦で空馬が最後まで自分でレースを運ぶのは非常に稀なケースで、頭の良さと距離適性の高さ、能力の高さを感じます。

2400m以下の重賞には出走経験がありませんが、半兄のキャプテントウーレは皐月賞馬であり、半姉のアルティマトウーレは1200m重賞2勝馬。近親にも2000m以下の重賞ウイナーが名を連ねるスピード能力の高い一族なので、特に問題はないと考えます。

血統評価:A

重賞実績:E(注)

適性評価:A

・ジャスティンパレス

父:ディーピンパクト

父母父:アルザオ(欧リファール系)

母父:ロイヤルアンセム(欧ヌレイエフ系)

祖母父:レッドランサム(欧ロベルト系)

半兄のアイアンバローズよりも、優れたトップスピードを持っていますが、持ち味が活きるのはスローペースの瞬発戦。

タイトルホルダーの創るような流れは合っていないかも知れません。

ただし、ルメール殿の「勝つ自信アリマス」が飛び出しておりG1でこの発言があると、それなりの扱いは必要でしょう。

血統評価:C

重賞実績:B

適性評価:C

・タイトルホルダー

父:ドウラメンテ(欧キングマンボ系)

父母父:サンデーサイレンス

母父:モチベーター(欧サドラーズ系)

祖母父:シャーリーハイツ(欧ネヴァーヴェンド系)

スパイス血統のトニービンとノーザンテーストを内包。

昨年の当レース(阪神開催)の圧勝馬。

母父モチベーターは凱旋門賞馬モンジューの産駒で、祖母父シャーリーハイツも凱旋門賞馬ミルリーフ産駒。間接的ではあるものの、凱旋門賞にゆかりのある血統がちりばめられており、自らタフな流れを創り出し後続の脚を封じる競馬を身上とするタイプ。

不安材料としては、勝ち星が全て内回りコースのもので外回りの直線平坦コースで本馬の競馬がどこまで通じるか？という点でございましょう。

あとは、キングマンボ系種牡馬産駒が京都開催の天皇賞で馬券に絡んだのは、ダービー馬のエイシンフラッシュ(非キンカメ系)のみという点でございします。

血統評価:B

重賞実績:A

適性評価:微妙

・ディーブボンド

父:キズナ(ディーブ系)

父母父:ストームキャット(米ストームバード系)

母父:キングヘイロー(欧リファール系)

祖母父:カコイーシーズ(米レイズアネイティヴ系)

父のキズナは、2年連続で1人気を裏切って着外。  
ただ、ロングスパート戦が向いていたキズナにとって、  
普通の瞬発戦ラップでは追込みが届かなかった事が  
最大の敗因であると考えられ、決して距離適性に  
問題があった訳ではないと考えております。

また、母父のキングヘイローはスプリントタイプの  
種牡馬ですが、キングヘイローの父ダンシングブレーヴは  
凱旋門賞馬で、本馬の「勝ち味の遅さ」はダンシングブレーヴの  
影響であると考えられます。

ラップ的には瞬発戦よりも、長く脚を使うロングスパート戦や  
消耗戦ラップの方が向いており、3角から下った勢いのまま  
平坦の直線を走る京都外回りコースは、エンジンの掛かりが遅い  
この馬には向いているのではないかと考えます。

近走の不振が、年齢による衰えでなければ  
馬券圏内は十分に考えられると思います。

血統評価:B

重賞実績:A

適性評価:A

・ディープモンスター

父:ディープインパクト

父母父:アルザオ(欧リファール系)

母父:ベラミーロード(米ダンチヒ系)

祖母父:ディキシーランドバンド(米ノーザンダンサー系)

重賞は4戦して全て圏外。

内回りコースの瞬発戦ラップに良績が集中。

ロングスパート戦になった東京2000mの

OP特別「白富士賞」では5着に敗退。

買い材料を見つけるのが難しい存在。

血統評価:C

重賞実績:E

適性評価:D

・ディアステイマ

父:ディープインパクト

父母父:アルザオ(欧リファール系)

母父:ストリートセンス(米ミスプロ系)

祖母父:マウントリヴァーモア(米ブラッシンググループ系)

母は米国のダートG1(1400m・1600m)を3勝したスピードタイプ。

母父のストリートセンスは米国のG1ケンタッキーダービー馬。

祖母父のマウントリヴァーモアは、米国ダート短距離馬。

この馬自身の「淡々と流れる起伏の少ない平坦ラップ」への適性は恐らく母父ストリートセンス譲りなのでしょう。

とにかく持続力のカタマリのようなタイプで、

3勝クラスの松籟S(阪神3200)では、

シルヴァーソニックに0秒5差をつけての逃げ切り勝ち。



タイトルホルダーのペースになった場合、  
後続が脚を封じ込まれる可能性もあり、そうなれば  
前走のG2日経賞3着の再現があるかも知れません。

血統評価:C

重賞実績:B

適性評価:B+

・トーセンカンピーナ

父:ディーピンパクト

父母父:アルザオ(欧リファール系)

母父:ホークウイング(欧ミスプロ系)

祖母父:パントレセレブル(欧ヌレイエフ系)

血統評価:C

重賞実績:C

適性評価:C

・ヒュミドール

父:オルフェーヴル(ステイゴールド系)

父母父:メジロマックイーン(欧トゥルビヨン系)

母父:チチカステナンゴ(欧グレイソヴリン系)

祖母父:アドマイヤベガ(Tサンデー系)

スパイス血統のノーザンテーストを4×5×4の  
多重クロスで保持しており、祖母父のアドマイヤベガは  
トニービンを持つTサンデー系種牡馬です。

祖母のキストゥヘヴンは桜花賞馬で、  
母の半弟タイムトゥヘヴンはマイル重賞ウイナーと言う  
マイラー牝系の出身馬。

前走のダイヤモンドSは、レコード決着の0秒1差と、

長距離戦でも牝系から受け継いだスピード能力を見せました。

このメンバーで通用するかどうか？という事と、  
前走が7F(1400m)延長ローテでの激走だったので  
距離短縮になる今回は、反動が心配ではあります。

血統評価:注

重賞実績:B

適性評価:B

・ブレイクアップ

父:ノヴェリスト(欧ブランドフォード系)

父母父:ラグナス(欧ニジンスキー系)

母父:クロフネ(米ヴァイスリージェント系)

祖母父:キングズベスト(欧キングマンボ系)

父ノヴェリストは、独国ダービー血統同士の配合馬。

祖母父キングズベストは凱旋門賞馬ワークフォースの父。

前走G2阪神大賞典は、スローペースの瞬発戦で  
2着馬と同タイムの3着に敗れましたが、  
ロングスパート戦の3走前のG2アルゼンチン共和国杯は完勝。

父(独国ダービー配合)の影響を受けている事が  
ハッキリと戦績に出ており、内回りよりも外回りの方が  
能力を発揮できるタイプだと見ております。

長く良い脚を使えるタイプですので、  
今回のメンバー構成で、リニューアル京都外回りというのは  
好材料であると捉えております。

血統評価:注

重賞実績:B

適性評価:A

・ボルドグフーシュ

父:スクリーンヒーロー(欧ロベルト系)

父母父:サンデーサイレンス

母父:レイマン(Lサンデー系)

祖母父:ウッドマン(米ミスプロ系)

父のスクリーンヒーローは、このレースで2人気14着。

母父のレイマンは仏国の短距離G1馬。

祖母父ウッドマンは、父としても母父としても

G1スプリンターズS優勝馬を出したスピード血統。

牝系からスピードを強化されており、内回りコースでの

末脚の切れ味が生きる流れには強いタイプで、

内回り以外のコースでは、重賞で連対出来ておりません。

血統評価:D

重賞実績:C

適性評価:D

・マテンロウレオ

父:ハーツクライ(Tサンデー系)

父母父:トニービン(欧グレイソヴリン系)

母父:ブライアンズタイム(欧ロベルト系)

祖母父:米ダンチヒ(ノーザンダンサー系)

曾祖母父:セクレタリアト(米ボールドルーラー系)

母父にトニービンを持つサンデー系種牡馬と

ブライアンズタイムの組合せは、12年に14人気で

優勝したビートブラックと同系の配合です。

また、ハーツクライ産駒は京都開催の当レースで

勝ち馬は出ていないものの、3着以内馬数が最多の8頭と、

非常にレース相性の良い血統です。

体型的には3200mは長いように映る点と、  
昨年秋から使い詰めのローテが不安材料。

ただ、持続ラップやロングスパート戦に向いており、  
血統の字面を考慮すれば侮れない存在。

何よりも・・・

ハーツクライ産駒に、「脚質の変化」が訪れる時は、  
完成期が近い事を示します。

脚質が安定しなかった時期には  
G1皐月賞、G1ダービーで2桁着順に惨敗していた本馬が、  
安定して好位から競馬出来るようになって、G1大阪杯では  
4着に好走致しました。

この事から、完成期が近い可能性を考慮すべきでしょう。

血統評価：A

重賞実績：B

適性評価：B

・メロディーレーン

父：オルフェーヴル(ステイゴールド系)

父母父：メジロマックイーン(欧トウルビヨン系)

母父：モチベーター(欧サドラーズ系)

祖母父：シャーリーハイツ(欧ネヴァーヴェンド系)

タイトルホルダーの半姉ですが・・・

OPクラスでは1度も馬券になっておらず、  
評価対象外として扱います。